

小川民報

発行

日本共産党
小川町委員会
編集責任者
笠原武
73-2536

生活相談は
お気軽に
連絡先
本多重信
72-3527
柳田多恵子
73-2562

あなたも読みたい
しんぶん赤旗
日刊 900円
日曜版 800円

菅 浮草 政権 どう行く

参院選で大敗した民主党 「二大政党づくり」は早くも行き詰る

日本共産党は
こう考えます

菅内閣支持率は30%
台後半（各新聞社世論調査）をさまよっています。政権にとつて「危険水域」と言われるのが3割台です。

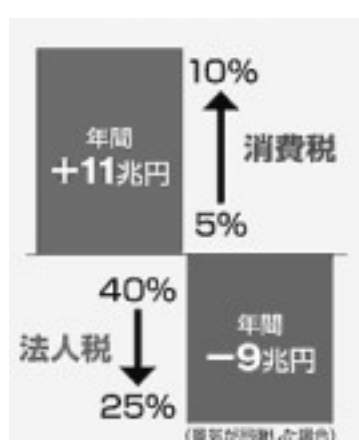
参院選の結果を見て、民主党が国民の信頼を得ているとはとても言えません。比例区

の得票率は31%、国民の3人に1人しか支持していません。自民党に至っては、24%、4人に1人です。これは「二大政党づくり」が早くも行き詰ったことを示しています。

参院選直後、NHKが「時事公論」の中で「二大政党による政権

交代という政治のあり方そのものに、重大な疑問がつきつけられたと考えるべきではないかと述べましたが、そのとおりではないでしょうか。

国民の多くは消費税に反対しています。減収減収で苦しい生活の上に、貧しい人にこそ重くのしかかる消費税。菅内閣は「ギリシヤのようになってしまふ」「福祉はどうする」「年金はどうする」など国民に脅しを



消費増税は法人税減税の穴埋めに

また、沖縄の普天間基地撤去以外解決方法はありませぬ。

なぜ目を向けない 「政党助成金」

政府は口を開けば「予算がない」と言います。「事業仕分け」では、大々的に無駄遣いをなくす様子を見せました。確かにその成果がなかったとは言いません。しかし、全くの無駄遣いである「政党助成金」のことは一言も聞かれませんでした。また、アメリカへの「思いやり予算」、

税金分け取りの

政党助成金こそ廃止すべき

	既に受け取った額 (4月・7月)	今後年内に受け取る 予定額 (10月・12月)
民主党	88億5000万円	84億4500万円
自民党	51億8800万円	50億7500万円
公明党	11億9400万円	11億4700万円
社民党	4億3200万円	3億9900万円
みんなの党	1億8000万円	4億9500万円
国民新党	1億9800万円	1億9800万円
新党改革	6000万円	5900万円
新党日本	6800万円	6700万円
たちあがれ日本	—	8100万円
計	159億7000万円	159億8600万円

注1) 新党改革が既に受け取った額のうち、4月分は改革クラブのもの。
注2) 今後年内に受け取る各党の予定額は7月の参院選結果を受けて再確定される年配分額の残額

しんぶん赤旗より

日本の政治は基本が 間違っている

膨大な軍事費には手付かずです。

民主党政権は、大企業に減税をしようとしています。そして国民には消費税増税です。大企業は229兆円（国民一人当たり200万円）のため込み（留保金）があります。このほんの数パーセントでも支出してくれば日本の福祉などすぐに改革できます。ここに減税することなどありません。沖縄基地問題もそうです。国民の言うことよ、アメリカの言うことを聞くから解決しないのです。



「教育がどうであるかによって、その国の将来が決まる」と言われます。戦前の軍国主義教育は日本を壊滅状態にしました。戦後新平

和憲法のもとに「教育基本法」が作られ、民主教育が発展しました。しかし、戦後の日本を支配してきた保守政権は、政策でそれをずたずたにし、遂に教育基本法そのものを改悪してしまいました。その中身は、民主教育の破壊であり、平和教育否定であり、連帯より競争を大事にする教育です。それが今、教育現場でいろんな悲劇を生んでいます。まず、定年を待たずに辞めていく教師が12000人（7月20日朝日新聞記事）もいます。若い教師もたくさんいます。また、在職中に死亡した教師も、ここ5年間で3100人に上っています。他の職種に比べて異常に高くなっています。「気持ち沈んで憂鬱」という教師は27.5%、約3人に1人とはたいへんな数に上っています。先生が明るく楽しくなくてなんで生徒が明るく楽しくなくなるでしょうか。そういう中で、教育現場でどんな問題が起こっているか、何回か連載したいと思います。

官ノ倉三太郎

裏へ

公約実現に全力を尽くします

参議院選挙の結果について

2010年7月12日 日本共産党埼玉県委員会

参議院選挙は11日投票され、日本共産党は、比例代表で市田忠義書記局長、田村智子候補、大門みきし参院議員が当選しましたが、改選議席から1議席後退しました。

埼玉選挙区は、伊藤岳候補が奮闘しましたが、及びませんでした。東京選挙区の小池晃氏は惜敗し、残念な結果となりました。

日本共産党にご支持をお寄せいただいた有権者のみなさん、ご支援をいただいた支持者、後援会員のみなさん、日夜奮闘された党員のみなさんに心からお礼申し上げます。また「比例5議席を。選挙区でも勝利を」のご期待にこたえられなかったことを心からおわび申し上げます。

選挙結果の総括は、今後みなさんのご意見もうかがいながらおこない、今後に生かしていきたいと思ひます。

日本共産党は、引き続き増税反対などの公約実現のために全力を尽くします。また、今後たたかわれる中間地方選挙や来春のいっせい地方選挙の勝利をめざし奮闘します。

アメリカの論理、海兵隊は抑止力だという論理に屈したところから、出口が見えなくなっています。消費税増税の問題も、4月に日本経団連が出した増税プランが一つの震源地になっています。外交はアメリカ、内政は財界、このいいなり政治から脱却して、憲法に書かれてあるとおり、「国民が主人公」の日本に転換していく。そうしてこそ、いまの閉塞状況が打開できると日本共産党は考えます。

語り合おう 学び合おう 子どもたちをまん中に



第15回 全国的つどいin埼玉 登校拒否 木登校問題

8月28日(土) 29日(日) 秩父市のナチュラルファームシテイ農園ホテルにおいて、わが子の登校拒否・不登校に悩むお父さんやお母さん、ともに悩み心をくわいている人達が語り合いつながりあう催しが行われます。

記念講演は「私は私でいたい」命の光を輝かせるために」と題して松崎運之助(元夜間中学校教師)さん。基礎講座と12の分科会に分かれ語り合います。柳田議員も参加する予定です。お問い合わせ下さい。さいたま教育文化研究所内 実行委員会事務局

fax 048 834 3167

交流 ニュース できごと

核兵器のない平和で公正な世界をめざしと歩こう

国民平和行進 小川町を通過

7月10日、核兵器廃絶を求めて8月に行われる原水爆禁止世界大会の地、広島、長崎へ向けて歩く第62回国民平和行進が小川町を通過。小川町役場前で集会を開き、東秩父ときがわ町へと車に乗り継ぎながら行進し、鳩山町へバトンを渡しました。



小川町では、原副町長が核廃絶に向けてのメッセージを読み上げ、行進参加者を激励しました。埼玉土建比企西部支部や新日本婦人の会、年金者組合、比企労連などから団体・個人が参加。日本共産党からは柳田町議が連帯の挨拶

小川町から平和を考える

今年は3つの催しも

を行い一緒に行進しました。平和行進は「歩く」という誰にもできる行動で、核戦争阻止、核兵器緊急廃絶、被爆者援護・連帯の要求をあらわし、沿道の市民に賛同をよびかけ、その原水爆禁止の要求を結集していく行動です。

- 8月19日から29日まで、町立図書館において「2010小川町平和のための戦争展」(小川町戦争展実行委員会主催)が開催されます。期間中、通常の展示の他に
- 歌の夕べ 8月20日(金) 午後5時〜7時 視聴覚ホール
- 朗読とチエロの調べ 8月22日(日) 午後2時〜4時 視聴覚ホール
- 体験を聴く会 8月28日(土) 午後2時〜4時 大会議室(2階)が催されます。入場は無料です。